

南風

～ あしたは もっとたかく ～

2021南中学校通信

第7号

令和3年10月4日

校長 北村 浩久

10月に入り、校庭を吹き抜ける風に少しずつ秋らしさを感じるようになりました。

2学期は、オンライン学習と分散登校を経て、9月最終週に入り、ようやく通常の授業を行うことができるようになりました。10月に入り、部活動についても校内での活動が行えるようになり、本来の学校の姿を取り戻すまでもう少しというところまで来ています。

9月末には県内の新型コロナウイルス感染者数も激減し、本県に発令されていた「緊急事態宣言」も解除されました。しかしながら、新たに10月14日までは「三重県リバウンド阻止重点期間」が設定され、引き続き感染拡大防止対策を行った上での教育活動の実践が求められています。

2学期は、体育祭や文化祭などの学校行事がたくさん行われます。これまで同様、子どもたちの安全安心を最優先した教育活動を進めてまいりますので、ご理解ご協力をお願いします。

☆☆ オンライン学習 ☆☆

「緊急事態宣言」の発令を受け、9月1日（水）～15日（水）までの期間、オンラインによる授業を行いました。

9月1日、2日はなかなかうまく接続ができず、生徒だけでなく保護者の皆さまにもご心配をおかけしました。3日以降はほとんどの生徒がオンラインに繋ぐことができ、ネット環境の影響などで繋ぐことのできなかった生徒は、登校してオンライン学習を受ける対応を取らせていただきました。

オンラインによる授業は、私たち教員も初めての経験で、どのように授業を行うと子どもたちに授業内容を理解させることができるか試行錯誤の毎日でした。途中で音声途切れたり、映像が止まってしまったりするなどのアクシデントもあり、学校で行う対面授業と比較すると十分満足できる内容ではなかったかもしれませんが、そこで行った学習内容は、登校後の授業の中で復習しながら行っていますのでご安心いただきたいと思います。

ただ、オンライン学習時の子どもたちの様子を見てみると、集中して受けることができている子もいれば、他事をして集中力に欠けていた子もいたように思います。オンライン授業で学習した内容を実のあるものにするには、一人で受けているからこそ、自分の行動を自分でコントロールする力が必要となります。これを機会に、自分を律する力を身に付け、今後再びオンライン学習を行う機会があった場合は、集中して臨んでもらいたいと思います。

☆☆ 全国学力・学習状況調査結果概要について ☆☆

5月に3年生が実施した「全国学力・学習状況調査」の分析結果概要を報告します。結果については、一人ひとりに返しますが、この結果が通知表等の成績に加味されることはありません。この調査結果を見て、自分の学習状況を把握し、今後の学習に活かしてもらいたいと思います。また、各ご家庭において、お子さんの学習定着状況をお話ししていただく機会にしていいただければと思います。

学校としても、一人ひとりの課題を把握するとともに、より効果的な学習の進め方等を検討し、指導の改善及び充実を図っていきたいと考えています。

1 全国平均との比較について

- ・国語に関しては、全国平均をやや下回った。
- ・数学に関しては、全国平均をやや下回った。

2 学力・学習状況調査からみられる本校生徒の「強み」と「弱み」について

【国語】

- ・正答数集計値から、14問全問正解の生徒の割合は全国平均よりも高いが、正答数6問以下の生徒の割合も全国平均よりも高く、得意、不得意がはっきりとし、2極化がうかがえる。
- ・【話すこと・聞くこと】【書くこと】【読むこと】【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】の全4領域において、全国平均を下回った。その中でも強みとまでは言えないが、言語に関すること（文法・漢字・語句など）は比較的全国平均に近い。
- ・全体的に全国平均を下回る中、「文脈に即して漢字を正しく読む」問題の正答率は全国平均を大幅に上回っている。本に触れ合う機会を大切にしている本校の特徴がよく表れた大きな強みであると言える。

【数学】

- ・【数と式】【図形】【関数】【資料の整理】の4領域とも全国平均を下回った。特に【数と式】の分野が弱みとなっており、「文字を含む四則計算」「問題文から必要な情報を見つけ、数量関係を方程式で表すこと」が定着していない。四則計算に関しては、数学の基礎となる部分であり、他領域にも大きな影響を与える内容であるため、毎時間の授業で計算の復習問題に取り組むことや家庭学習で繰り返し取り組めるように、基礎基本の定着を目指していく必要がある。
- ・【関数】【資料の整理】の2領域については、全国平均を下回ったものの、他領域に比べ全国平均値に近い。
- ・正答数集計値から、16問全問正解の生徒の割合は全国平均よりも高いが、正答数7問以下の生徒の割合も全国平均よりも高く、得意、不得意がはっきりとし、国語同様に2極化がうかがえる。
- ・生徒質問紙の「数学の勉強は好きですか」「数学の勉強は大切だと思いますか」の質問に対して、肯定的な回答をした生徒の割合は全国平均を上回っている。こういった生徒の意欲を大切にしながら指導を進めていく必要がある。

3 学習状況調査に関わって(生徒質問紙より)

- ・いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うと答えた生徒の割合が高く、人権意識の高い生徒が多い。
- ・「学校に行くのは楽しいと思いますか」の質問に対して、当てはまると答えた生徒の割合は、全国平均よりもかなり高くなっている。多くの生徒にとって、学校が安心して過ごせる場となっていることがわかる。
- ・「普段、スマートフォンやコンピューターなどのICT機器を、1日当たりどれくらいの時間、勉強のために使っていますか」の質問に対して、2時間以上と答えた生徒の割合は、全国平均を大きく上回っている。反面、ゲーム等に使用する時間も多くなっている。
- ・学級での話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている生徒の割合が高い。また、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると感じている生徒の割合も高い。
- ・新型コロナウイルスによる休業期間中、規則正しい生活を送ることができていた生徒の割合は、全国平均よりも高くなっている。
- ・「将来の夢や目標を持っている」「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている」「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している」という質問に対して当てはまると回答した生徒の割合が低い。

4 今後の指導の工夫と改善について

- ・基礎学力の定着が本校の大きな課題となっている。数学、英語の少人数教育をさらに充実させ、より丁寧な指導を行っていく。また、ICT機器を活用した授業を積極的に取り入れ、子どもたちの学習意欲の向上を図っていく。
- ・学級を核とした集団作りを大切にするとともに、部活動等を通して、困難なことを乗り越えていける力を養う。また、仲間とともに最後まであきらめないで協力したりすることをたくさん経験させることで、帰属意識、規範意識、自尊感情等を高めていく。